

## 式辞

厳しい寒さが続いた冬も、もうすぐ終わりを告げようとしています。ここ甲山にも春の息吹を感じられる今日のよき日、PTA会長鈴木陽子様をはじめ 多くのご来賓の皆様、並びに多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに兵庫県立西宮甲山高等学校 第三十四回卒業証書授与式を挙げていくことは、誠に大きな喜びであります。高いところからではありますが御礼申し上げます。

そして、これまで、長きにわたって慈しみ育てられました保護者の皆様、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。立派に成長されたお子様の姿に、感激もひとしおかと拝察いたします。

ただ今、卒業証書を授与いたしました第三十四回生 百九十名の皆さん、卒業おめでとうございます。

私は、三十四回生の皆さんとは、二年間の付き合いでしたが、定期戦、甲フェス、体育大会、修学旅行などでの皆さんの奮闘ぶりから、たくさん感動をいただきました。今、皆さんの脳裏には、甲高での三年間の生活が走馬燈のようによみがえっていることでしょう。友達と、先生と過ごした学校生活、行事、部活動、家庭のこと、進路のこと、など、楽しいこともたくさんあったと思いますが、いろいろと思い悩んだことも多かったのではないかと、思います。それらを克服し、見事、本日ここに卒業の日を迎えることができました。本当によく頑張りました。ただ、この日を迎えることができたのは、家族、友人、先生方その他多くの人々の暖かい励ましや、支えがあったことへの感謝を忘れてはなりません。その方々は皆さんにとっては宝物ですから、これからも大切にしてください。

さて、皆さんがこれから生き抜かなければならない社会は、どのような社会で、皆さんに何を求め、期待しているのでしょうか。その答えのひとつは、今まで経験したことのない事態、困難な場面に直面したとき、それに最適な答えを出すことができる課題解決能力です。高度情報化、グローバル化は今後もとてつもないスピードで進み、人工知能を始め、私たちの想像を遙かに超えることがどんどん現実になっています。地震や台風でも想定を超えた被害も珍しくありません。身につけた知識や技能、過去の経験が役に立たない想定外の事態に直面しても、動じず、自らしっかり考えることができる力、判断する力が求められているのです。また、自分の考えを周囲に理解してもらうための表現する力、他人の考えを聞き深く理解する力、すなわちコミュニケーション能力をベースに周囲の人たちと力を合わせて困難な事態の打開に向かう力も重要です。大学、専門学校に進学する人も就職する人も、単に知識・技能を身につけるだけでなく、自ら考える力、判断する力、表現する力、チームで取り組む態度を身につけるため、主体的に、協働しながら、深く学びや仕事に挑戦してほしいと思います。

さて、これからそんな厳しい社会に船出をする皆さんに、私から少しばかりの願いをします。

それは、自分を大切にしてほしいということです。それには、いくつかの意味や考え方がありますが、基本になるのは、あなた自身の気持ち、こころ、感情にありのままに従うことです。まず、あなたの好きなこと、やりたいことをやりましょう。といっても、わがままを通すとか、人を意のままにコントロールするようなことではもちろんありません。あんなことしたい、あの人に会いたい、こんな人生にしたい、あんな仕事をしたい、こうなりたい、ああしたい、いろんな思いを、あなたの夢を追うことにほかなりません。つ

まり、挑戦です。といっても、実際は小さな一歩を辛抱強く続けることでしかありませんから、言葉の響きほどかっこよくありません。しかし、それでもあなたの好きなことに挑戦する人生を送ってほしいと思っています。その積み重ねが自分らしく生きるということではないでしょうか。そんな風に日々挑戦するあなたは、かっこよくて輝いているでしょう。ですから、自分で自分を褒めてあげてください。仮に何かに挑戦して失敗したときでも、頑張ったあなたは自分を褒めてあげてください。失敗は大きな学びであり、次へのステップになります。結果ばかり求め、失敗を怖がっているのは、挑戦はできません。失敗すると恥をかいったり、自分や人の心を傷つけてしまうかもしれません。怖いとも思うでしょう。今のままでも別にいいし、たいして困らない、今やらなくてもいいでしょ。挑戦から逃げるいいわけはいくつもあります。しかし失敗を恐れず、挑戦することで自分らしく生きてほしいと思っています。何年か先、あの時は失敗しちゃったよと笑い話ができるのか、あの時挑戦しとけばよかったと後悔するのかです。できるかできないかではありません、やるかやらないかです。

もし自分の心が傷ついたなら、その傷を癒やしてあげてください。自分に優しくしてあげてください。立ち止まって結構です。一歩も二歩も退いて結構です。受け止められないような辛いことは、受け止められなくて当然です。無理して頑張らなくてもいいのです。耐えられないなどと思えば、いつか逃げ出してもいいでしょう。自分の命を大切にしてください。自分の心の痛みを素直に向き合うことのできる人は、他人の心の痛みもわかり、優しくできるでしょう。

以上二つのことは、実は本校校訓の基そのものであります。「己を極め」は、「自分らしく挑戦すること」、「ふれあいのなかに」は、「他人の心の痛みをわかること」、ぜひ、この二つを大切に「明日を拓いて」いただければと思います。

さて、三十四回生の皆さんは、本校の教育方針に則り、あるべき甲高生の姿を体現してくれたと私は思っています。これからは、皆さんが歩んだ跡を、しっかりと確かめながら、さらなる改善を加えて、後輩たちが歩いていくこととなります。皆さんが残してくれた成果を、いかにして定着、発展させていくかが、私どもの大きな仕事のひとつであると考えています。ひとつ、「小さな学校にしかできない教育がある」、ひとつ、「森の中の学校だからできることがある」を合い言葉にこれからも頑張ってもらいます。ぜひ、今後の甲高を楽しみにしていただくとともに、応援をしていただけたらと思っています。

名残は尽きませんが、卒業生の皆さんがたくましく成長され、実り多き人生を歩まれること、さらには皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして、式辞といたします。

平成三十一年 二月二十八日

兵庫県立西宮甲山高等学校

校長 山村 修平